

| | | | | | | | | | |
|--------|--------|------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 祭事 | 夜 6:00 | 6:30 | 7:00 | 7:30 | 8:00 | 8:30 | 9:00 | 9:30 | 10:00 |
| 水上イベント | | 水上イベント(随時) | | | | | | | |
| 水上花火 | | 水上花火 | | | | | | | |
| 打上げ花火 | | | | | | | | | |

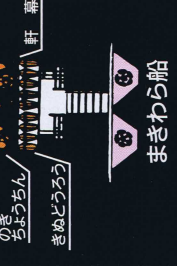
但し、天候・出船の状況等により変更及び中止になる場合があります

尾張津島天王祭

宵祭 7月23日(土)

午後6時から 天王川公園(津島町)

津島旧五ヶ村、筏場(いかだば)・下構(しもがまえ)・堤下(とづげ)・米之座(こめのざ)・今市場(いまいちば)から、屋形中央高く真柱(まばしら)を立て、一年の月数、その下に一年の日数、正面にひと月の日数の提灯や絹灯笼など、約500個の提灯をかけた、五艘のまさわら船が津島樂を奏でながら、円池に漕ぎ出て、灯りが川面に映るさまは、幽玄の極みであります。



まさわら船

尾張津島天王祭プレイベント



天王通り2~5丁目
パフォーマンス PM 5:00~PM 7:30
フリーマーケット PM 3:00~PM 8:00

天王祭の由来

“津島さん”“天王さん”と呼ばれて親しまれている「津島神社」は、1470余年もの伝統がある牛頭天王の総本社

天王祭は津島神社の祭礼として600年近く続いています。その起源には、南北朝時代に津島に逃れてきた良王親王(後醍醐天皇の尊孫で南朝方の親王)を守る津島武士が、北朝方の武士を舟遊びに誘って討ち果たしたと、諸説ありいまだ明らかではありませんが、長祿3年(1459)の記録が残されており、それ以前からおこなわれていたことは間違いありません。
弘治4年(1558)信長が天王祭を見学したのを始め、豊臣秀吉や尾張藩主が頻りに見学しています。
天王祭は、古来旧暦6月14・15日に行われていましたが、昭和38年より7月第4土曜日(宵祭)に改められ、昭和55年には国の重要無形民俗文化財に指定されました。

宵祭

23日(土)

みこしとぎよ
神輿渡御 ●午前10時
宵祭・朝祭を御神覧いただくため、神輿が津島神社より供嶺と共に御旅所に向かう様は優雅であります。

によいでんか
如意点火~提灯点火 ●午後7時

当番車の太鼓を合図に、まさわら船の真柱(まばしら)に点灯する12個の提灯を競いあつてあげたあと、各部分の提灯点火が進められます。

出船 ●午後8時45分

赤船に乗った神社の迎えの神職の挨拶をうけたまさわら船は、当番車から順次漕ぎ出します。

10日(日)
いみだけたて
斎竹立



撮影：渡辺隆

21日(木)
●午前8時
船分け

祭に使用する船を古式により、宵祭の2日前の早朝に風流な「くじ」で分配します。「くじ」で決められた船を車河戸に漕ぎ、屋台をのせて、祭の準備を始めます。

22日(金)
●午後8時
ちこうちまわ
稚児打廻し

天王祭に奉仕する稚児には、5~7歳の男児が選ばれ、宵祭の前日夕刻、華麗なる古式衣装を着け、花鳥帽子を被り撥を肩に掛けて、車屋から車で供嶺と共に祭船に進み、奏樂の後列を整え津島神社に向かい、拝殿前を三回打廻し、稚児披露と祭の安全を祈った後、車屋に戻ります。



神輿渡御



撮影：大橋功広



如意点火~提灯点火



撮影：尾田光夫